

教育部

組織目標



教育部は、教育総務課・学校教育課（教育センター）・学校給食課（学校給食センター）・社会教育課・博物館・図書館・公民館で構成し、学校教育、社会教育に関する施策に取り組んでいます。

教育部の目標（令和４年度）	教育部長 浅見 嘉之
【部の基本方向】 教育行政の基本理念である「豊かな人間性の育成」に向け、「学びと実践があふれるまち」をテーマに、学校教育と社会教育が連携・融合して各施策の展開を図ります。	
【部の重点方針】 - 夢の実現に向けた学校教育の充実に努めます。 - 地域との連携と生きる力の育成に努めます。 - 学びと実践による地域づくりに努めます。	
【課の目標（達成すべき目標）】   【教育総務課】 - 子どもたちの教育環境向上につながる学校教育施設の充実や学力向上につながる教材の整備等を図ります。 - 西武地区中学校の統合に向け、西武地区中学校統合委員会を設置するとともに、令和７年度からの一時移転・統合を目指して各課題の解決のための取組を始めます。 - 小学校１校の校舎の便所（縦１系統）について、給排水管等を改修するとともに大便器の洋式化を図ります。 - 男女共用となっている小学校１校の屋内運動場の便所について、男女別に改修するとともに多機能トイレを新設します。	【目標の達成度合】 - 西武地区中学校の学校統合委員会を組織し、統合に向けての課題について５回の委員会を開催し、意見聴取を行いました。通学路の課題については、関係課と連携し、対応策を整理しました。 - 縦１系統の給排水管、内装を改修するとともに、その系統の大便器はすべて洋式化、洗浄機能付き便座にすることができました。また、多機能トイレも整備し、オストメイト対応の設備、車いす使用者、子ども連れなど多様な人が利用可能なものとなりました。 - 男女別の便所に改修するとともに、多機能トイレを設置することができました。また、設置にあたっては、大便器を洋式化、洗浄機能付き便座にするとともに、多機能トイレはオストメイト対応の設備、車いす使用者、子ども連れなど多様な人が利用可能なものとなりました。

- ・小学校 16 校の校舎の教職員便所について、大便器の洋式化を図ります。

【学校教育課】



- 2 教員と児童生徒の信頼関係を深め学力の向上と定着を図るとともに、保幼小の連携及び福祉と教育と保健の連携をさらに充実させ、子ども未来室事業の推進を図ります。

- ・児童生徒の聴く力を育成し、仲間と考えることが楽しい学習環境の場を設定するとともに、自己肯定感を高めることで学力の向上と定着を図ります。

- ・GIGAスクール構想に基づき、タブレット等を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、児童生徒の学力向上に努め、埼玉県及び全国学力学習状況調査において全体の正答率の向上を目指します。

- ・子ども未来室事業として、児童発達支援センターとの連携・情報共有を行い、幼稚園、保育所（園）、小・中学校への巡回支援、特別支援学級、通級指導教室の充実を図ります。また、福祉と保健との連携を強化し、社会参加・自立について学ぶ機会を増やします。

（巡回支援：300 回）

- ・生徒指導・教育相談体制の整備、いじめ問題の対応や不登校の児童生徒に対する支援、適応指導教室のさらなる充実を図ります。

- ・教職員便所（一部）の大便器を洋式化することができました。また、設置にあたっては、洗浄機能付き便座とし、教職員の職場環境の向上を図りました。

- ・各小中学校において「学び合い」を導入し、仲間と考えることが楽しい学習環境の場を設定しました。さらに、その学習の土台となる児童生徒の「聴く力」を育むために、学校指導訪問等における授業指導や各学校での校内研修会への支援を通して、教職員の授業力向上を図りました。また、学級における「心理的安全性」を確保することで、児童生徒の主体性や学ぶ意欲が向上する姿が見られるようになりました。

- ・タブレット活用研究委員会において、タブレット等を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実について研究を行いました。また、タブレットの活用方法についてリーフレットにまとめ、全教職員に配布しました。ICT支援事業を活用し、各学校においてタブレット活用の研修や授業実践の紹介を行いました。学習支援ソフトの活用率については、全国平均を上回り多くの授業で活用を図ることができました。

- ・児童発達支援センターとの連携強化により、さらに情報共有がスムーズに行われるようになりました。また、巡回支援により、未就学児の実態を把握し、支援の在り方や指導方法などを伝えることで、授業内容や児童生徒との関わり方の質の向上につなげることができました。さらに、福祉及び保健との連携により、多職種による支援体制が整い、社会参加・自立について学ぶ機会を増やすことができました。

（巡回支援 300 回）

- ・生徒指導訪問等において得た情報を共有し、不登校の児童生徒に対する支援方法について確認及び助言を行いました。また、国・県における生徒指導課題の現状や施策等について学校

【学校給食課】



3 安全・安心でおいしい学校給食を安定的に提供します。

- ・学校給食衛生管理基準に基づく給食調理を行い、安心・安全な給食を提供します。
- ・学校給食センターの施設更新に向けて、整備基本構想・基本計画を策定し、用地取得に向けた取組を始めます。
- ・自校給食校の給食費公会計化に向けて課題の検討などを行い、事業計画を策定します。

【社会教育課】



4 市民の多様な生涯学習活動をまちづくりに活かします。人権教育推進事業の充実を図り、市民の人権意識の向上を目指します。

公民館では地域の学習の場、交流の場、コミュニティの場を提供するとともに、地域づくりを支援します。

- ・大学等との連携により子ども大学さやま・いるま、子ども音楽大学いるまを実施します。学習成果を地域に活かすために、生涯学習フェスティバル、まちの先生講座を実施します。

(参加者数：4,000人)

- ・人権問題講演会、人権啓発講座など、人権教育推進事業を実施します。

(参加者数：400人)

- ・暮らしを豊かにし、地域を活性化する学びを提供します。

と情報共有を行いました。

- ・学校給食衛生管理基準に基づいた給食調理を行うことによって、衛生的にも安全で安心できるおいしい学校給食を安定的に提供しました。
- ・学校給食センター整備基本構想及び整備基本計画を策定するとともに、用地取得に向けて、農用地区域除外や建設予定地の測量を実施しました。
- ・給食費公会計化に向けた事業計画の策定には至りませんでしたが、近隣市における給食費事務の状況把握を行いました。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子ども大学さやま・いるま、子ども音楽大学いるまは定員を半数に縮小して実施しました。生涯学習フェスティバルはオンライン開催のオープニングイベントとして、3年ぶりに対面により産業文化センターで実施することができました。

まちの先生講座は拡張型の講座を9講座実施し、延べ356人の参加がありました。

新型コロナウイルス感染症による定数減、規模縮小により、合計参加者数は2,334人でした。

- ・人権問題講演会(196人)、人権啓発講座(5回、延べ99人)、夏休み人権映画会(3回、延べ26人)、PTA家庭教育学級(2PTA、延べ65人)の人権教育推進事業の実施などで合計386人の参加がありました。

- ・各公民館では、暮らしを豊かにし、地域を活性化する学びの提供として、健康づくり、高齢社

(主催・共催・後援事業数：300 事業)

【博物館】



5 市民の「心のよりどころ」となる博物館の実現を図ります。

- ・常設展示の一部リニューアルを実施し、質の高い学びの場としての機能を充実させるとともに、博物館の新たな魅力発信を行います。また、ICT等を活用した博物館授業を実施します。
(入館者数：40,000 人)

- ・旧石川組製糸西洋館について、市民の文化財保護意識の醸成や市の魅力アップにつなげるため、施設の保存に努めるとともに一般公開や魅力的なイベントを実施し活用を図ります。
(入館者数：3,500 人)

- ・旧黒須銀行の保存活用に向け、復元改修工事のための方策を検討するとともに、特別公開の実施により魅力発信に努めます。
(入館者数：2,000 人)

【図書館】



6 地域の知の拠点として、誰からも親しまれる図書館の充実を図ります。

- ・図書館資料の充実を図り、魅力ある図書館づくりを推進します。
(資料蔵書数：585,000 点)
(年間貸出点数：860,000 点)

- ・近隣市との図書館網の拡充を図ります。
(ダイア5市、青梅市相互利用者数：29,000 人)

会、子育て、環境問題、情報格差解消、安心安全な暮らし、人権問題、伝統文化の継承に関する事業を実施しました。

(354 事業)

- ・常設展示リニューアルでは、これまでの調査研究の成果や最新情報をわかりやすく展示することで観覧者の満足度が向上しました。また、オンライン授業の次年度本格稼働に向けた試行を図り、ICTの活用に取り組みました。
(入館者数：52,874 人)

- ・旧石川組製糸西洋館では、文化財としての保存を図るとともに、一般公開や魅力的なイベントを通して、多くの市民に文化財保護の意識の啓発と建物の魅力発信につなげることができました。
(入館者数：5,381 人)

- ・旧黒須銀行復元修理工事の財源確保のためのクラウドファンディング事業では、目標金額を上回る成果を挙げました。また、幅広い層に旧黒須銀行の現状や魅力を伝え、親しんでもらえる新たなイベントを積極的に実施しました。
(入館者数：1,071 人)

- ・図書館資料については、市民のくらしや学びに役立つ資料を選書し購入するとともに、資料の除籍と、寄贈資料の受入れを進めるなど充実に努め、資料蔵書数は587,302点(昨年度581,043点)となりました。また、様々な利用促進事業を実施することにより、利用拡大を目指しましたが、年間貸出点数は670,698点(昨年度689,720点)となりました。

- ・ダイア5市内(所沢市・飯能市・狭山市・日高市)市民の利用者数合計は26,572人(昨年度28,795人)、青梅市民利用者数は80人(昨年度104人)でした。

・図書館システムを更新し、利用者のサービスの向上を図るとともに、図書館業務の効率的な運営を行います。	※図書館システム更新のため、臨時休館したことが利用者減少の要因と考えます。 ・図書館システムを更新したことにより、※F e l i c a (フェリカ)やマイナンバーカードでの貸出が可能となりました。また、入間市立図書館公式L I N E アカウントを開設したことにより利用者のニーズに合わせて、サービスが選択できるようになり、利用者の利便性の向上を図ることができました。 ※F e l i c a (フェリカ)とは 電子マネーや交通系 I C カードに搭載されている「非接触型」の I C カード技術方式
---	--